

徳島県議会議員

# 古川ひろし とくしま通信

皆様の声を、徳島を動かす力に。  
その架け橋をめざして。



VOL.4

平成30年12月15日発行

## 超高齢・人口減少社会に向け 共生社会の構築を

2040年頃に高齢者人口は4,000万人を超え、そのうち約3,000万人が75歳以上という「超高齢社会」を迎えます。一方、現役世代の人口は減少を続けて約6,000万人となり、高齢者2人を現役世代3人が支える時代がやってきます。将来の担い手確保に向けて、国でも外国人受入れ政策が進められていますが、この状況を乗り越えるには相当な困難が予想されます。全国よりも一足早く超高齢社会を迎える徳島でも、全国に先駆けて地域共生社会の構築を進めるとともに、外国人労働者との共生についても、地方から国へと声を挙げていく姿勢が必要と考えます。

## 阿波踊りを核に 関係人口を増やす

地方の人口減少の大きな要因が、東京への一極集中です。働き盛りの現役世代を維持するためには、徳島への移住を促進する必要があります。ただし、いきなり徳島に移り住んでもらうのは難しいため、まずは県外にいながら徳島と多様に関わる「関係人口」を増やしていくことが大切になると考えています。関東圏で高い人気を誇る阿波踊りも、関係人口を増やすための絶好的な文化と言えます。徳島市周辺地域への民泊をさらに推進させながら徳島に足を運んでもらう機会を増やすなど、これまでの取組みをさらに強化してまいります。

## 防災・減災対策を 県政の最重要課題に

将来世代のために持続可能な社会を築くためには、地球温暖化への対策も不可欠です。2018年の7月豪雨では200人以上の方が命を落とすなど、異常気象が頻発化・激甚化しています。特に堤防の整備が進んでいない中小河川の被害が予想されるため、一刻も早い対策が求められています。そして、地球温暖化の緩和策と適応策を同時に進めながら、二酸化炭素の排出量に応じて課税を行うなどの抜本的な対策を推し進めることが重要です。生まれてくる子どもたちに豊かな未来を残すためにも、強い決意を持って取り組んでまいります。



# 徳島県議会 平成30年9月定例会 一般質問

超高齢社会や現役世代の人口減少、地球温暖化による気候変動への対策など、9月議会では徳島の未来に深く関わる課題について質問を行いました。当日の内容をダイジェストでお伝えします。



## ● 地球温暖化への危機感の醸成について

**質問** 地球温暖化が将来の世代に甚大な影響をもたらすという危機感が、県民に浸透するまで、県は繰り返し啓発を行うべきと考えるが、所見を伺いたい。

**答弁** [知事] 近年、世界各地で異常気象が発生し、我が国でも毎年のように記録的な猛暑や豪雨による甚大な被害が生じるなど、地球温暖化による気候変動の対策は人類共通の喫緊かつ重要な課題となっております。県では、全国初の「脱炭素社会に向けた気候変動対策推進条例」に基づく緩和策と適応策に加え、平成30年7月豪雨の教訓を踏まえ「防災」に関する講座や体験学習の機会を活用して、相乗効果の高い、より工夫を凝らした新たな啓発活動を強力に展開してまいります。

## ● 福祉避難所への公共施設等の指定促進について

**質問** 災害弱者の受け皿となる福祉避難所の箇所数・受入れ可能人数を増やすため、県が管理する福祉施設や特別支援学校等が積極的に協力して指定促進を図るべきと考えるが、所見を伺いたい。



**答弁** [知事] 福祉避難所の指定を進めるため、平成24年に「災害時相互応援協定」を社会福祉施設関係6団体と締結し、市町村に対し一般避難所における「福祉避難スペース」の確保を働きかけてまいりました。さらなる受入体制の充実を図るため、議員ご提案の「県管理の福祉施設の福祉避難所指定」に向け、まずは障がい者交流プラザについて、市や施設関係者との調整を進めるとともに、特別支援学校などにおける要配慮者の受け入れについても検討を行ってまいります。



●7月豪雨の災害現場(三好市)を視察



●石井国土交通大臣の本県視察に同行

# 超高齢化・人口減少対策に関する質問

## ●外国人労働者受け入れ拡大に対する 先進的事業の実施について

**質問** 現在、県内で暮らす外国人労働者等を対象に、各種社会問題の解消に向けた先進的な事業を実施すべきと考えるが、所見を伺いたい。



**答弁** [知事] 外国人労働者の受け入れ拡大に対応するには、働く上の問題はもとより、生活面での課題解消を図っていく必要があると認識しております。今後はサポート機能の充実とともに、寄せられた各種相談を「FAQ」の形で共有するなど現在の取組みを進化させ、人にやさしい共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

## ●児童虐待対策の体制強化及び 特別養子縁組の推進について



**質問** 業務量の増大が想定される児童相談所の体制強化と、虐待で亡くなる赤ちゃんの命を救う特別養子縁組の推進について、所見を伺いたい。

**答弁** 児童相談所の体制や専門性の強化を図るため、関係機関による「児童相談所強化プロジェクト会議」において、将来を見据えた児童福祉司、児童心理司等の適切な配置や育成について検討するとともに、特別養子縁組制度は永続的に安定した養育環境を提供する有意義な制度として推進しております。

## ●健康寿命延伸に向けた糖尿病対策の強化及び 生涯スポーツの振興について

**質問** 糖尿病対策を大胆に継続的に推進するため、県民に多く参加してもらえる運動不足解消の取組みを地域経済の活性化も兼ねた形で考えるとともに、生涯スポーツのさらなる振興を図ってはどうか。



**答弁** 「地域経済の活性化」を盛り込んだ「新たな視点」での取組みは、健康づくりの機運を高めるものと考えており、「商店街」とコラボレーションし、「運動」と「買い物」を同時に楽しむ「ウォーキングイベント」の開催や、健康診断や健康イベントの参加に対する「ポイント交換システム」の活用など、「お得に」、「楽しく」、「誰もが参加しやすい」と行った魅力を加えることにより、さらに多くの県民の皆様に健康づくりに取り組んでいただけるものと考えております。

また、今後とも、積極的に生涯スポーツの振興を図るとともに、スポーツを通じた交流人口の拡大にもつながるよう努めてまいります。

## ●孤立世帯の実態調査について

**質問** 改正生活困窮者自立支援法の趣旨を十分に理解し、本県における「社会的孤立」実態把握のための調査等を進めるべきと考えるが、所見を伺いたい。

**答弁** 県では、障がいのある方や高齢者の方等が社会的孤立に陥らないための取組みのほか、就労や家計の再建といった相談を受ける「自立相談支援事業」や「高齢者生活困窮者支援事業」を行っております。引き続きこれらの事業を通して適切に対応を図っていくとともに、本県における社会的孤立の実態把握に努め、今後の国の動向も踏まえながら、県としてどのような調査が可能なのか考えてまいります。



## ●ゴミ不法投棄の取締まり強化について

**質問** ゴミ不法投棄が頻発するスポットに監視カメラの設置等により、投棄者の特定と厳正な対処といった取締りを、担当課と警察が連携して実施すべきと考えるがどうか。



**答弁** 投棄者の特定や取締りにつきましては、警察との連携により県警併任職員を配置し、県職員とともに現場対応や調査を実施するなど、捜査機関との力を合わせた取組みにより、投棄者の責任追及および原状回復に向けて、鋭意対処しているところです。今後とも「捨て得は許さない」という断固たる決意のもと、悪質な事案には厳正に対処し、安易に不法投棄ができる環境を構築すべく施策の推進に努めてまいります。



## 移住体験ツアー拡充について 公明新聞に紹介されました

2017年11月11日付の公明新聞に、県が「移住体験ツアー」の回数を年1回から4回へと拡充するとともに、交流や体験などの多彩なイベントを実施することが紹介されました。2016年6月定例会の地方創生対策特別委員会で「地方への移住希望者に、徳島を知ってもらえる機会をつくることの重要性」を提言し、地道な推進活動を続けてきたことが実を結び嬉しく思います。



●文教厚生委員会の県内視察で城西高校を訪問



●石田公明党政調会長を招き、消費者行政新未来創造オフィスの諸活動を聴取

# 皆さんのご要望に応え、日々の暮らしに安心を。

ご相談・ご要望を頂いた皆さま方のメッセージをご紹介します。

## ●都市計画道路の水漏れ調査

岩崎 繁さん

家の近くを通る都市計画道路の橋桁の一部から水漏れがあり、放置すると周辺住民の暮らしに弊害が出てくる懼れもあったため、相談をさせていただきました。迅速に調査に乗り出してください、その後の対応やご説明によって安心することができました。他の件でもたびたび相談に乗っていただきなど、いつも本当に感謝しています。



## ●近隣の造成地における側溝整備

小川 寛さん

近所の土地が造成されて宅地になったのですが、側溝が整備されていなかったため水はけが悪くなっていました。古川議員にいろいろと調べていただいた結果、県道として整備していただけることが分かり、無事に側溝を設置していただくことができました。雨天時の水はけも改善し、周辺住民も安心して暮らすことができています。



## ●那賀川の堤防に関する安全対策

四橋 博さん

台風によって那賀川の水位が上がり、堤防の下から水が噴き出しているのを見ました。とても不安だったので知り合いと共に古川議員に相談した所、国の河川事務所に同行してくださり、その原因や今後の対応策などについて説明を求めてくださいました。状況がしっかりと確認できたことで、ひとまず安心しています。



## ●EM技術の風評被害への対応

芝 幸一郎さん

食糧、健康、環境など、さまざまな分野で活用されているEM技術が風評被害にあい、その研究や販売などに携わってきた私自身も心を痛めしていました。環境への取組みに熱心な古川議員に相談した所、関係各所と協議を重ねてくださり、できる限りの改善策をとっていただきました。関係者一同、心から感謝しています。



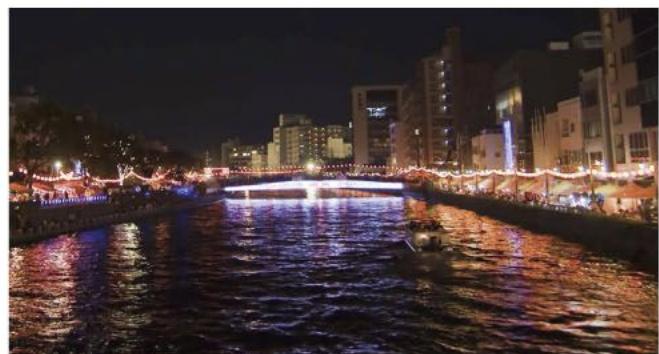
# 若者たちがボランティアを楽しめば地域はもっと元気になれる

グリーンバード 徳島チームリーダー 岸田 侑さん



## ●「グリーンバード」を徳島に

学生時代から地域のボランティア活動に参加してきましたが、心のどこかに世代間ギャップを感じていました。若い人を活動に誘っても面白くないから続かないし、ベテランのメンバーたちも若い人の考え方や行動に不満を持つというミスマッチが起こっていたのです。そんな時、目に留まったのが、東京の表参道で始まった「グリーンバード」の活動でした。お洒落なお揃いのユニフォームを着て楽しそうにゴミ拾いをする若者たちの姿を見て「これだ!」って。本部の許可を得て徳島チームを立ち上げた所、多くの大学生や高校生たちが地元の清掃活動に参加するようになり、発足から5年間の参加者数は延べ4,300人に達しています。



## ●若者が支える阿波踊りの舞台裏

阿波踊り期間に行われている「ごみゼロ作戦」に参加させていただいたのが、古川議員との出会いでした。まだ何の活動実績もなかった僕たちを、清掃活動のメンバーとして温かく迎え入れてくれたんです。本当に嬉しくて「一番ごみが多い場所をさせてください!」と申し出たことを覚えています。その後、ごみゼロ作戦への参加者を増やす戦略として「ごみゼロ連」を立ち上げた時には、連のシンボルとも言える『高張り』を新調してくれました。いつも自然体で若者を受入れ、応援してくださる古川議員を尊敬しています。これからも柔軟な視点でボランティアを進化させ、地域と深く関わる若者を一人でも多く育てていければと思っています。

## 古川広志 プロフィール (ふるかわ ひろし)

- 生年月日 昭和36年(1961年)8月12日
- 出身地 徳島県阿南市那賀川町
- 現住所 徳島県徳島市住吉2丁目7-19
- 家族 妻(ひとみ)と2人家族
- 現党職 公明党徳島県本部幹事長

- 経歴  
昭和49年 平島小学校 卒業  
昭和52年 那賀川中学校 卒業  
昭和55年 富岡西高校 卒業  
昭和59年 創価大学経済学部 卒業

昭和59年 徳島県庁入庁 平成26年退職  
平成27年 徳島県議会議員に初当選  
平成30年 徳島県監査委員

[県議会] 〒770-8570 徳島市万代町1-1 TEL 088-621-3034 FAX 088-621-2814

[事務所] 〒770-0861 徳島市住吉2丁目7-19 TEL・FAX 088-612-7118

[携帯電話] 080-5661-7372 [メール] h\_furukawa\_houmi@yahoo.co.jp

古川ひろし ホームページ  
<http://hiroshi-furukawa.jp>

